

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の特性に応じた個別支援
	内容	利用者の基本情報を基に個別支援計画が作成され、日々の様子等で変わったことがあれば職員会議で情報を共有し、その都度適切な対応の検討を行なっている。強いこだわりでなかなか集団の中に入っていけない利用者に対し、決まった指導員が順番に声をかけにいたり、訪問調査時に伺った際には不穏状態の利用者に対し、施設長自ら「どうしたのか」と傍まで歩み寄り、相談室でじっくり本人の訴えを聞いていた。このように利用者個々の特性に応じ、負担がかからぬような配慮が施設全体に徹底されており、利用者が生き生きとしている姿がうかがえた。
2	タイトル	バラエティーに富んだ授産活動
	内容	授産活動は、紙箱の組み立てやクリスマスプレゼントセット詰め等の受注作業と合わせてパン・クッキー等の自主製造・販売、アルミ缶回収作業のような主体性を保てる作業をバランス良く行っているため、年間を通して作業がある。また、自主製造品は地域のイベントや施設、市外の商店等に販売に行き積極的な営業を図っている。利用者の9割近くが、希望する作業をやり、楽しいと答え、保護者のアンケートでも高い評価を得ている。今年度はパン焼き機を新たに購入し、ニーズの高い食パンづくりに取り組むべく準備を進めている。
3	タイトル	地域との連携
	内容	施設の事業内容をより一層理解いただき、また市民との交流を深めるために、「パン作り講習会」や「のぞみ祭り」を開催している。平成20年度の「パン作り講習会」には7家族、12名が参加し、のぞみ祭りには250名の方が参加した。また社会参加の活動として、買い物・調理実習や宿泊実習を行い、さらに利用者互助会中心に地域の資源を活用して様々なお楽しみ活動を行っている。会社見学を行って、就労活動も支援している。このように積極的な園外活動を通して多くの授産ルートや販売の促進、就労支援の場に繋げる努力が窺える。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	マニュアルの整備
	内容	送迎などの事故につながりやすい事例は、施設長より会議にて事例検討や再発防止に向けた指導が行われているが、事故防止に向けた具体的なマニュアルが整備されていない。例えば、爪や手洗いなどの衛生管理やインフルエンザやノロウイルス等の感染症対策について、ルールづくり、利用者や家族への周知方法、職員のチェック体制などのマニュアルが必要と思われる。また、職員の日常業務に際して、正規職員・有期職員が効率的に利用者の安全を考えてサービスするためにも、業務の標準マニュアルを整備していくことが望まれる。
2	タイトル	中・長期の展望、方針の明示
	内容	園を利用する方々の日中活動以外の生活環境やこれからの生活について、地域資源が不足している現状を把握している。地域に長年根ざして活動している法人や園の考え「障害をもつ方の社会参加と自立を支援していく」、「障害をもつ方に対する市民の理解を深めていく」、「利用者の方が住み慣れた地域で生活していくため、地域の方との関わりを大切にしながら作業を展開していく」を活かし、地域の現状の課題解決に向けた展望や中・長期計画などを策定、明示していくことが課題のように思われる。
3	タイトル	職員の育成方針の明確化
	内容	常勤指導員を6名から3名と人員体制を削減している中、職員一人ひとりが積極的に日常業務に従事し、利用者に対してモチベーション高く業務に携わっていることがアンケートでうかがえた。その中で、貴重な福祉人材の将来に向けて、リーダー層や経営層になるにあたり、どのようなスキルを身につけていくのか。正規職員と有期職員との業務分担や職務権限の見直しを含め、今後の職員の育成方針を明確化することが課題のように思われる。